

◆関係機関、利用者、職員に対するアンケート調査結果について

1. アンケート調査から見る新センターに求められる事項

アンケート調査として、「関連施設アンケート」、「利用者アンケート」、「職員アンケート」を実施しており、当センター連携施設や利用者及び職員の視点から見た新センターに求められる役割・機能や施設整備について整理しました。

(1) 関連施設アンケート

当センター各施設における連携状況を把握するとともに、連携施設から求められる役割・機能の整理を目的として、実施したアンケート調査結果は下記の通りです。

アンケートは下記5種類を実施し、各連携における現状と課題を整理するとともに、その解決に向けて新センターのソフト面及びハード面において求められる事項について整理しました。

アンケート種類	対象施設	対象数	回収数 回収率
リハビリテーション医療施設との連携施設	平成 30 年度においてリハビリテーション医療施設への紹介件数が多く、全体紹介件数の内 70%を占めるヘビーユーザーの病院	21 施設	14 施設 67%
愛育園との連携施設	平成 30 年度において愛育園への紹介件数が多い病院	13 施設	8 施設 62%
医療型障害児入所施設及び指定発達支援医療機関	県内の医療型障害児入所施設及び指定発達支援医療機関	5 施設	5 施設 100%
更生園との連携施設	平成 30 年度において更生園への紹介及び相談・問い合わせ件数が多い病院・施設等	13 施設	8 施設 62%
地域リハビリテーション広域支援センター	千葉県地域リハビリテーション広域支援センター	8 施設	7 施設 88%

1) リハビリテーション医療施設との連携施設

ア. 紹介患者の主な疾病・重症度・状態等と紹介理由

紹介患者の主な疾患としては、高次脳機能障害患者が多く挙がっており、特に重症例や若年者層の場合に紹介するケースが多くなっています。また、脊髄損傷や神経疾患、先天性の小児疾患等の重症例を紹介するケースも挙がっています。疾患以外では、社会復帰や復職を目指す患者(または見込みのある患者)等の就労移行を見据えた紹介も挙がっています。

主な疾病・重症度・状態等
・高次脳機能障害患者(若年者の脳卒中、脳梗塞、脳出血、脳血管障害、頭部外傷患者、低酸素脳症の患者、頭部打撲後の脳内出血の後遺症患者、脳炎、脳症後患者、脳性麻痺等)
・社会復帰や復職を目指す(または社会移行見込みのある)患者
・中～重症の脊髄損傷患者
・多発性硬化症や脊髄炎等の神経疾患の患者
・全身状態不良や原疾患重症等で急性期治療に長期間を要した者
・小児疾患(早産児の発達遅延、ダウン症候群、重度の自閉症スペクトラム等)

紹介する主な理由としては、高度専門的なりハビリテーションが実施出来るからとの理由が多く挙がっています。また、高次脳機能障害や脊髄損傷患者といった高度障害に対して、社会復帰も含めて総合的に対応可能なリハ施設であることも理由に挙がっています。

主な理由
・高度の専門性を要するため、専門的で高度な、他の施設では出来ないリハビリが受けられ、社会復帰も期待できるから。
・高次脳機能障害患者について、復職や復学まで視野に入れてトータルに治療が出来るから。
・脊髄損傷患者に対する総合的なアプローチが可能なリハ施設は限られているため。

イ. 連携における課題

連携における課題としては、疾患対応範囲の拡充が多く挙がっています。また、転院等における受入待機期間についても複数の施設から課題として挙がっています。

主な課題
・重症度の高い患者や複数疾患を持つ患者への対応等、疾患対応範囲の拡充。
・受入待機期間が長い。
・電子媒体を活用した情報共有等、効率的な連携体制の構築。

ウ. 新センター整備に求める事項

新センター整備に求める事項について、ソフト面では、疾患対応範囲の拡充や連携体制の構築、障害者児(者)の健診が挙がっています。ハード面では、最新のリハビリテーショ

ン技術に対応した施設整備や障害者に配慮した施設整備が挙がっています。

主な意見	
ソフト面	・対応範囲の拡充(高次脳機能障害や失語のみの患者の外来通院リハ、がん患者等)
	・千葉全体のリハビリテーションを推進させる協議会を作り、各専門職を集め、今後の千葉全体のリハを統括して欲しい。
	・個々のケースのリハビリテーションについて急性期病院とともに事後検証する機会があれば良い。
	・障害児(者)の健診など、他回復期リハビリ病院にはない取り組みを期待します。
ハード面	・先進的な設備、電動義手、ロボットスーツなどの最新のテクノロジーによるリハビリテーションや職業訓練が実施出来る施設。
	・個室対応が出来る施設整備。
	・入口からのアクセスのしやすさ、案内板のみやすさ、トイレの大きさ等、障害者に配慮した施設整備。

2) 愛育園との連携施設

ア. 紹介患者の主な疾病・重症度・状態等と紹介理由

紹介患者の主な疾患としては、重症心身障害児や先天性疾患、神経難病等の超重症児が多く挙がっています。また、被虐待児等の社会的困難ケースの受け入れも挙がっています。

主な疾病・重症度・状態等
・重症心身障害児(気管切開、人工呼吸管理、胃ろう又は経管栄養)
・先天性の疾患、神経難病など進行性の疾患で超重症児または準超重症児
・ギラン・バレー症候群や脊髄炎、脳性まひにより中途障害による運動障害をきたす疾患
・医療ケアの濃厚な長期入院患者
・被虐待児のうち人工呼吸管理などを要する患者

紹介する主な理由としては、各種入園機能が揃っていることや特別支援学校との連携が充実していることが挙がっています。

主な理由
・短期入所、長期入所、親子入園、リハビリ入園等の様々な機能を有するため。
・特別支援学校との連携が充実しているため。
・親子入園を通して、両親の医療的ケア時への手技獲得のため。

イ. 連携における課題

連携における課題としては、病床が満床状態であることにより、受け入れが困難となっていることが挙がっています。

主な課題	
・ 満床状態となっており、予約が取りづらい。	
・ 短期入所枠が少なく、在宅療養患者の緊急時受入れが困難なことが多い。	

ウ. 新センター整備に求める事項

新センター整備に求める事項について、ハード面として、短期及び長期入所ベッド数増加による受入強化が多く挙がっています。

主な意見	
ハード面	・ 短期、長期入所ベッド数及び定員数増による待機者の解消及び受入強化
	・ 現場職員が働きやすい動線の確保。

3) 医療型障害児入所施設及び指定発達支援医療機関

ア. 現状整理

各施設における利用率、待機者数、入所者年齢構成は下記の通りです。一部空床は短期入所枠として使用しているため、どの施設も満床での運用となっており、待機者も多い状況となっています。また、入所者年齢構成を見ると、高齢者が少ないことから、今後数十年先においても需要減少は無いと予測されます。

項目	愛育園	A 施設	B 施設	C 施設	D 施設	E 施設
利用率	93.9%	96.6%	97.5%	100.0%	100.0%	100.0%
入所者割合	100%	100%	100%	100%	100%	100%
0～9 歳	23.4%	8.6%	19.2%	6.0%	2.0%	3.5%
10～19 歳	32.3%	9.5%	14.1%	2.0%	4.0%	15.5%
20～29 歳	22.6%	17.2%	24.4%	4.0%	12.0%	10.3%
30～39 歳	16.1%	18.1%	19.2%	18.0%	18.0%	16.4%
40～49 歳	5.6%	29.3%	15.4%	46.0%	30.0%	23.3%
50～59 歳	0.0%	16.4%	6.4%	24.0%	34.0%	24.1%
60～69 歳	0.0%	0.9%	1.3%	0.0%	0.0%	6.9%
70 歳以上	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
待機者数	96 人	49 人	28 人	30 人	44 人	63 人

※複数施設に待機者登録（重複）している方がいるため、各施設待機者の合計数が県内の待機者数（実員）ではない。

イ. 連携状況

主な連携状況としては、月1回開催の重症心身障害連絡協議会による情報共有となっており、本会議にて当センターが中心的な役割を担っています。

主な連携状況
・重症心身障害連絡協議会による個別ケースについての情報共有。

ウ. 医療型障害児入所施設における課題

医療型障害児入所施設(アンケート先施設)における主な課題としては、人員、設備、物品等、様々な面で需要に対応出来ていないことが挙がっています。

主な課題
・医療的ケア児者増加に対して、人員、設備、物品の確保及び職員のスキルアップが追いついていない。
・利用者も加齢し身体の成長(体格)や機能低下に並行し介護量、医療度共に高くなり、職員の負担が増加している。
・短期入所については、呼吸器使用など濃厚なケアが必要な方の利用希望が増加傾向であるが、職員数に限りがある為、受入れが難しい。
・県外も含め、成人の入所待機者の増加が著しい。待機期間が長期に亘ることで、その介護者である親も歳をとり、在宅での介護負担が大きくなっている。
・動く医療的ケア児の利用希望者が増加しており、体制面(環境、人員など)に難しい状況である。

エ. 新センター整備に求める事項

新センター整備に求める事項について、ソフト面では、在宅支援部門や通所事業の強化が挙がっています。ハード面では、短期、長期入所のベッド数の増加が挙がっています。

主な意見	
ソフト面	・在宅支援部門を拡充して欲しい。
	・高度な医療的ケアが必要な障害児(者)について各地域での受入れを増やすための全体的なセンター機能を担って欲しい。
	・重症心身障害児・者の通所事業は医療ケアの高い方の利用希望が増えているため、通所事業の拡大(定員増や送迎を行うなど)をして欲しい。
ハード面	・短期、長期入所ともにベッド数を大幅に増加して欲しい。特に高度の医療的ケアに対応できるものとして欲しい。
	・千葉県重症心身障害連絡協議会年度大会を開催できるようなイベントホールを整備して欲しい。

4) 更生園との連携施設

ア. 紹介及び相談問い合わせする利用者の主な疾病・重症度・状態等と紹介理由

紹介患者の主な疾患としては、脳血管疾患による高度脳機能障害や脊髄損傷患者を中心に、様々な重症度・状態の利用者の紹介・相談が挙がっています。

主な疾病・重症度・状態等
・脳血管疾患や脊髄損傷患者について、様々な重症度・状態の方。
・脳血管疾患により重度片麻痺及び高次脳機能障害等の中～重度の後遺症が残っているが、復職等を目標に自立度、行動範囲を拡大させたいという希望のある方

紹介する主な理由としては、他の就労支援施設では支援が困難な事例（疾患や重症度等）や利用者の状況（居住地や家庭事情）によるところが挙がっています。

主な理由
・地域の支援機関では新規就職や復職がうまくいかないと思われる方であるため。
・自宅付近に就労移行支援施設が無い、家庭の支援が難しい等のケースのため。
・近隣住所在住の利用者のため。

イ. 連携における課題

連携における課題としては、ノウハウ等の情報交換や利用者情報の共有等の更なる連携強化が多く挙がっています。

主な課題
・高次脳機能障害や頸髄損傷者に対するノウハウ等の情報交換を行うとともに、そのノウハウを社会に発信していく活動を実施したい。
・利用者の病状、生活状況、今後の取り組み等の情報共有を更に密に実施したい。

ウ. 新センター整備に求める事項

新センター整備に求める事項について、ソフト面として、訪問支援の更なる充実や支援範囲の拡大による就労支援強化が挙がっています。

主な意見	
ソフト面	・重度障害も受入れ可能なセンターを目指して欲しい。
	・訪問型ジョブコーチも視野に、就労支援に携わる人員を増やして欲しい。
	・障害児から高齢の障害者（身体障害、高次脳機能障害、認知症等）に対する予防、リハビリテーション治療、退院後の在宅支援に取り組んで欲しい。
	・介助度合いの高い、医療的ケアが必要等の利用者にも対応できるよう支援の幅が広がると良い。

5) 地域リハビリテーション支援センター

ア. 地域リハビリテーション広域支援センターとの連携状況

主な連携状況としては、各種協議会や意見交換会を通じた連携体制構築の強化や各種研修会を通じた人材育成や市民への啓発活動での連携が挙げられています。

主な連携状況
・ 地域リハビリテーション協議会や広域支援センター担当者意見交換会での情報共有により、地域リハビリテーションのあり方、伝え方、説明ツール作成、災害リハ啓発等を実施。
・ 地域リハビリテーション広域支援センター主催の各種研修会の講師対応等による人材育成や啓発活動の実施。また、千葉リハビリテーションセンター主催の講習会への参加。
・ C-RAT 主催の防災訓練等による協働事業。

イ. 連携における課題

連携における課題としては、地域リハビリテーションの推進に向けて、人的補充による体制強化が挙げられています。

主な課題
・ 千葉リハビリテーションセンターの人員も限られているため、地域リハビリテーションの推進に向けて、人的補充が必要と考える。
・ 各種イベント等の開催日程等を早期の段階で調整して欲しい。

ウ. 新センター整備に求める事項

新センター整備に求める事項について、ソフト面では、情報交換ツールや人材交流等の連携に向けた新たな取り組みの検討が挙げられています。また、就労支援機能の強化も挙げられています。ハード面では、災害時への配慮が挙げられています。

主な意見	
ソフト面	・ リハビリ担当者同士で情報交換するツールがあると良い。
	・ 院内受入れ制度等による人材交流があると良い。
	・ リハビリに関する先端技術を積極的に取り入れ、県全体に広めて欲しい。
	・ 地域リハビリテーションの推進に向けて、千葉リハビリテーションが中心となって進めて欲しい。
	・ 職業訓練機能が充実している医療機関が少ないため、職業訓練機能を充実して欲しい。
ハード面	・ 災害時も地域リハビリの拠点になれるよう、通信環境等を整えて欲しい。

(2) 利用者アンケート

利用者目線での現センター機能及び施設設備に関する課題と新センター要望について整理したアンケート調査結果は下記の通りです。

1) 調査手法

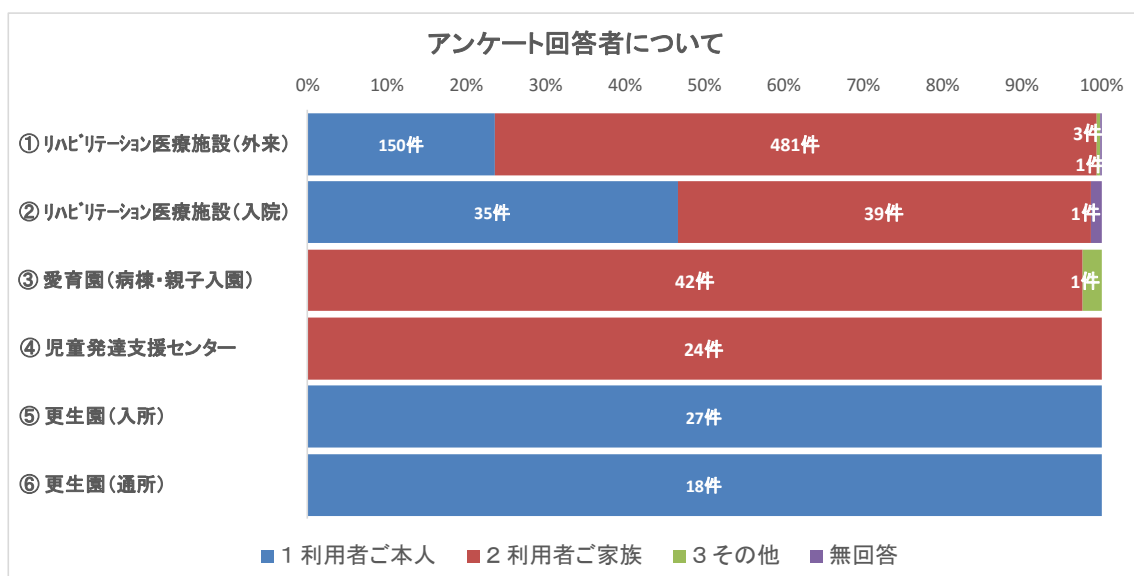
アンケートは、施設機能ごとの利用者に対して実施しています。アンケートの配布数と配布期間、回収状況は下記の通りです。施設機能ごとに回収率の差異はあるものの、利用者アンケート全体の回収率は54%となっています。

施設機能	配布期間	備考	配布数	回収数	回収率
①リハビリテーション医療施設（外来）	平成31年2月1日から2月15日		1,151枚	635枚	55%
②リハビリテーション医療施設（入院）	平成31年2月1日から2月25日		150枚	75枚	50%
③愛育園（病棟・親子入園）	平成31年2月1日（回答期限2月22日）	郵送配布	182枚	43枚	37%
④児童発達支援センター	平成31年2月1日（回答期限2月22日）	郵送配布		24枚	
⑤更生園（入所）	平成31年2月1日から2月25日		52枚	27枚	87%
⑥更生園（通所）	平成31年2月1日から2月25日			18枚	
合計			1,535枚	822枚	54%

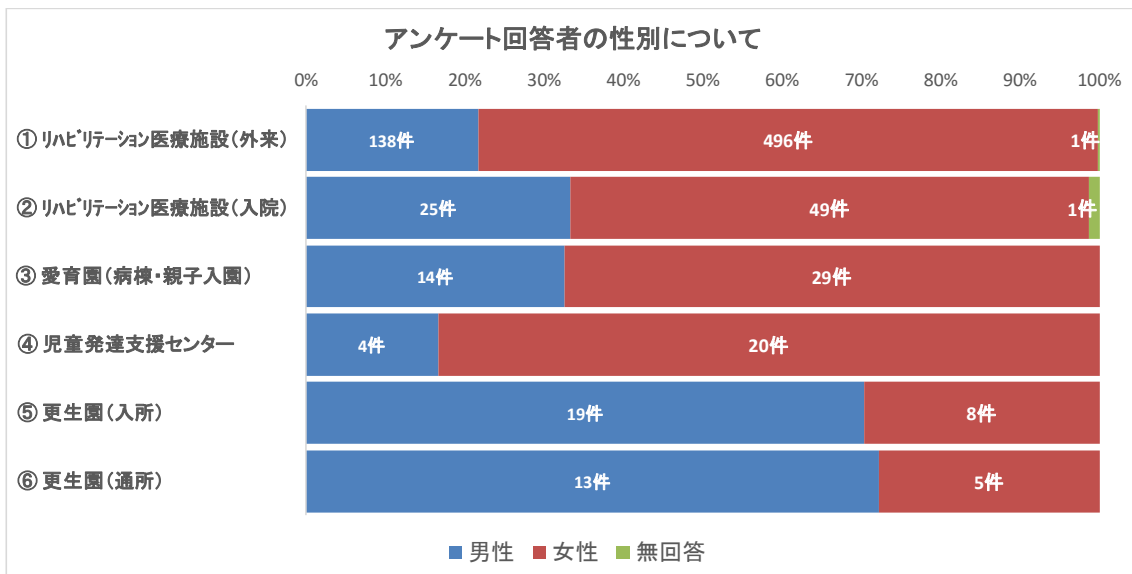
2) アンケート回答者の概要

アンケート回答者の概要として、施設機能ごとのアンケート回答者、アンケート回答者の性別、アンケート回答者の年齢の割合について掲載しています。

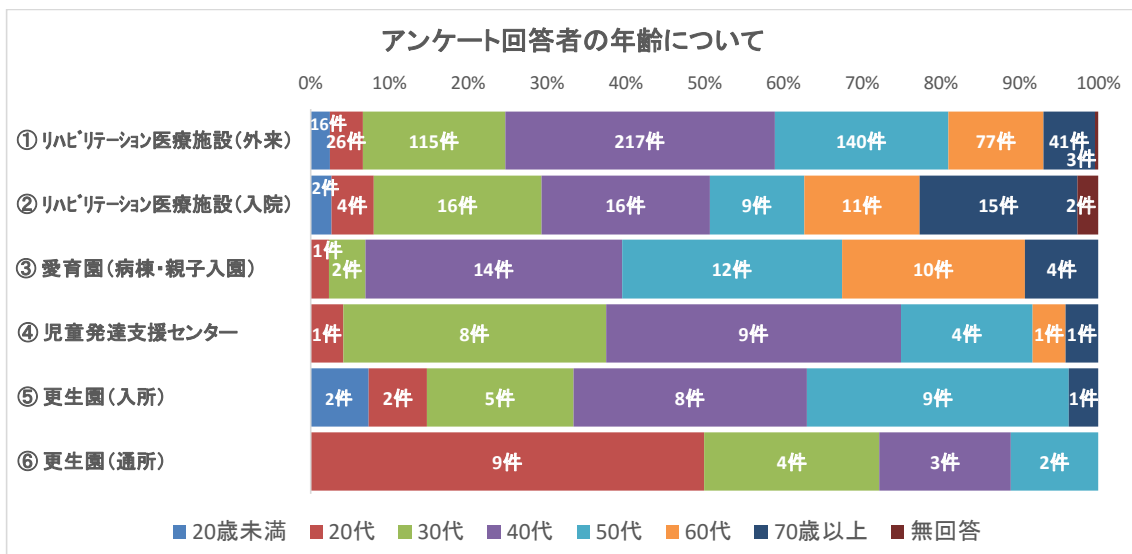
施設機能ごとのアンケート回答者（利用者ご本人、利用者ご家族、その他、無回答）については、①リハビリテーション医療施設（外来）では、利用者ご家族の回答割合が高くなっています。②リハビリテーション医療施設（入院）では、利用者ご本人と利用者ご家族の回答割合が同程度となっています。③愛育園（病棟・親子入園）と④児童発達支援センターでは概ね全件数が利用者ご家族の回答となっています。⑤更生園（入所）と⑥更生園（通所）では全件数が利用者ご本人の回答となっています。



施設機能ごとのアンケート回答者の性別については、①リハビリテーション医療施設（外来）と②リハビリテーション医療施設（入院）、③愛育園（病棟・親子入園）、④児童発達支援センターでは、女性の回答割合が高くなっています。⑤更生園（入所）と⑥更生園（通所）では男性の回答割合が高くなっています。



施設機能ごとのアンケート回答者の年齢については、①リハビリテーション医療施設（外来）では、30代から60代の回答割合が高くなっています。②リハビリテーション医療施設（入院）では、70歳以上の回答割合が高くなっています。③愛育園（病棟・親子入園）では、40代から60代の回答割合が高くなっています。④児童発達支援センターでは30代と40代の回答割合が高くなっています。⑤更生園（入所）では、40代と50代の回答割合が高くなっています。⑥更生園（通所）では、20代の回答割合が高くなっています。



3) 現センターの施設設備に関する課題と新センターでの要望

利用者アンケートでは、2つの回答形式を設けています。1つは、「当センターの施設や設備面について、あなたはどのようなところを充実してほしいとお考えですか。」という設問に対して、下記の14項目からの選択（最大3件まで選択可）による回答形式です。もう1つは、「現在の施設や今後の施設整備について、ご意見やご要望がございましたら、ご自由にご記入ください。」という設問に対する自由意見による回答形式です。

14項目の選択肢	
1	利用者の安全に配慮した設備（段差を減らす、手すりを設置するなど）
2	利用者のプライバシーに配慮した設備
3	広くてゆとりある診察室や病室
4	利用者にとってやさしく、明るい空間（施設内への自然光や緑の取入れなど）
5	利用者やご家族が利用できる相談や面談スペース
6	待ち時間への対策設備（待ち時間を表示することなど）
7	居住棟における個室設備
8	リハビリテーション訓練設備（居住棟内への設置など）
9	高度な医療機器（具体的な医療機器名については自由記載）
10	売店や食堂などの利便施設
11	障害者スポーツ施設（体育館など）
12	駐車場台数
13	今までどおりでよい
14	その他（具体的な内容については自由記載）

ア. 選択形式における結果概要

施設機能ごとの選択件数は下記の通りです。また、施設機能ごとの選択件数の構成割合を次頁に掲載します。

	14項目の選択肢														総計
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	
① リハビリテーション医療施設(外来)	192件	71件	116件	155件	70件	197件	25件	106件	28件	252件	46件	243件	83件	41件	1,625件
② リハビリテーション医療施設(入院)	21件	9件	20件	34件	7件	18件	4件	17件	3件	27件	3件	21件	7件	5件	196件
③ 愛育園(病棟・親子入園)	13件	7件	11件	24件	10件	3件	9件	12件	3件	10件	5件	8件	7件	1件	123件
④ 児童発達支援センター	9件		5件	7件	4件	6件	1件	4件	2件	9件		17件		4件	68件
⑤ 更生園(入所)	5件	12件	2件	4件	4件	1件	12件	11件	2件	11件	1件	3件	2件		70件
⑥ 更生園(通所)	2件			7件	3件	5件		6件	1件	5件	7件	2件	5件		43件

施設機能ごとの選択件数の多い上位3つの項目について、①リハビリテーション医療施設(外来)では、「10. 売店や食堂などの利便施設」15.5%、「12. 駐車場台数」15.0%、「6. 待ち時間への対策設備」12.1%の順となっています。

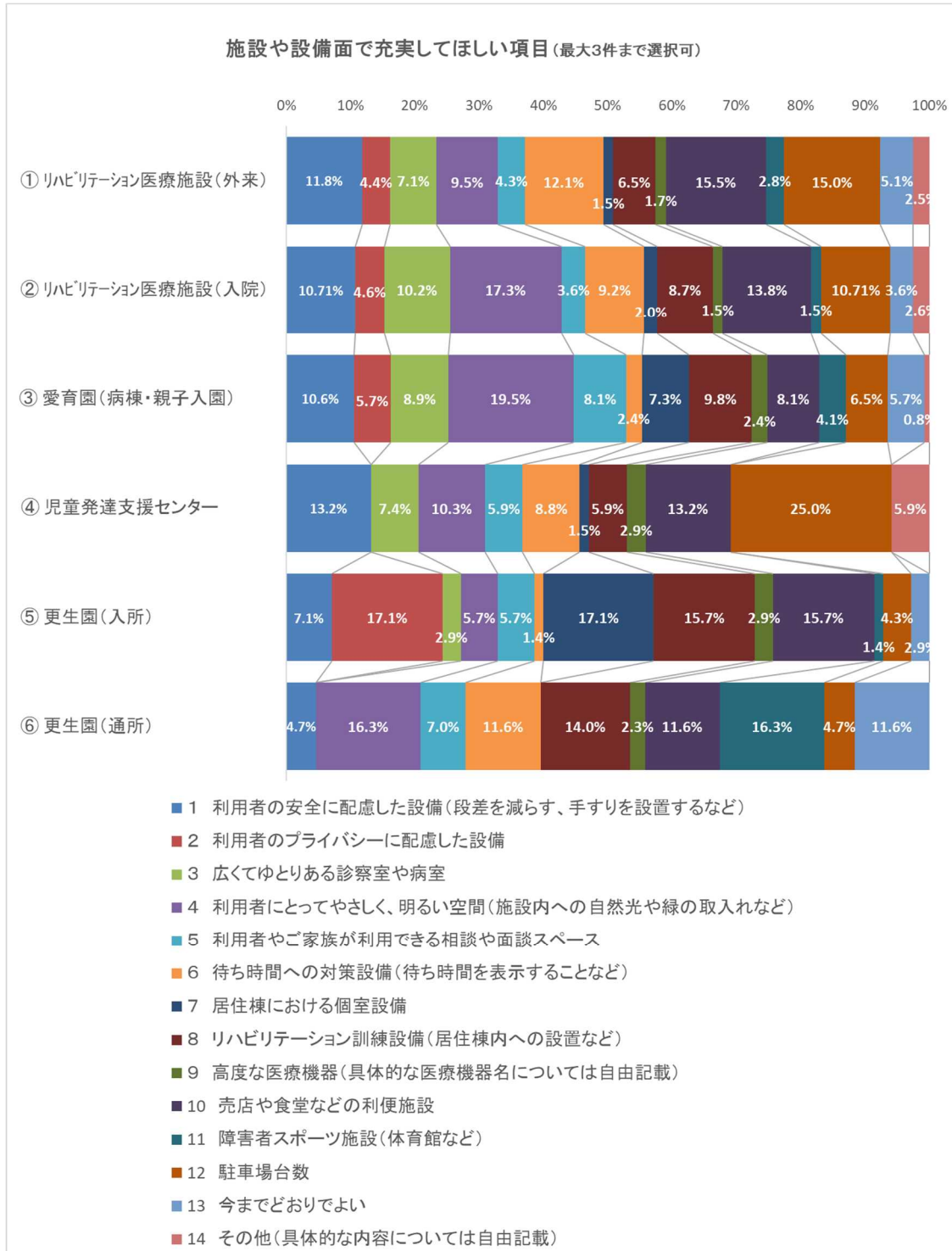
②リハビリテーション医療施設(入院)では、「4. 利用者にとってやさしく明るい空間」17.3%、「10. 売店や食堂などの利便施設」13.8%、「1. 利用者の安全に配慮した設備」と「12. 駐車場台数」10.7%の順となっています。

③愛育園(病棟・親子入園)では、「4. 利用者にとってやさしく明るい空間」19.5%、「1. 利用者の安全に配慮した設備」10.6%、「8. リハビリテーション訓練設備」9.8%の順となっています。

④児童発達支援センターでは、「12. 駐車場台数」25.0%、「1. 利用者の安全に配慮した設備」と「10. 売店や食堂などの利便施設」13.2%の順となっています。

⑤更生園（入所）では、「2. 利用者のプライバシーに配慮した設備」と「7. 居住棟における個室設備」17.1%、「8. リハビリテーション訓練設備」と「10. 売店や食堂などの利便施設」15.7%の順となっています。

⑥更生園（通所）では、「4. 利用者にとってやさしく明るい空間」と「11, 障害者スポーツ施設」同 16.3%、「8. リハビリテーション訓練設備」14.0%の順となっています。



イ. 自由意見の結果概要

回収した 822 枚において 424 件の自由意見記載があり、下記の通り分類・集計しました。

大項目	中項目		小項目	
	区分	件数	区分	件数
ソフト面	機能	28 件	リハビリテーション医療施設	11 件
			愛育園	12 件
			児童発達支援センター	3 件
			更生園	2 件
	運営・運用	49 件	待ち時間	16 件
			売店	15 件
			案内	7 件
			食堂	6 件
			予約	3 件
			その他	2 件
ハード面	諸室	81 件	待合	7 件
			病室	4 件
			廊下	2 件
			食堂	1 件
			風呂	1 件
			休憩	17 件
			利便	12 件
			スポーツ	7 件
			訓練	4 件
			相談	3 件
			個室	2 件
			収納	2 件
			診察	1 件
			支援	1 件
	その他	17 件		
	動線	4 件	部門配置	3 件
			室配置	1 件
	設備・機器	106 件	トイレ	64 件
			機器	16 件
			設備	7 件
			空調	7 件
			通信	5 件

			エレベータ	5件
			電源	1件
			その他	1件
	セキュリティ	3件	-	
	屋外	59件	駐車場	40件
			車寄せ	11件
			屋外通路	4件
			公園	3件
			屋外リハ	1件
	その他	94件	交通	9件
			コンビニ	6件
			ATM	6件
			カフェ	5件
			位置	3件
			薬局	3件
その他			62件	

ウ. 機能に関する意見

上記項目のうち、機能に関する意見は下記の通りです。

施設機能	件数	区分	意見
リハビリテーション医療施設	11件	診療科	・ 車椅子の方が利用しやすい内科などの一般的な診療科。
			・ 腰椎・首頸椎科があると良い。
			・ 障害者のための耳鼻科。
			・ 入院中に眼科や歯科を受診出来ると良い。
		対応範囲	・ 個々の障害また病状に合わせた高度医療の提供。
			・ 20歳以上(18歳以上含め)の集中リハ入院の提供。
			・ 難病などに対する医療の充実、それに伴う他の病気の治療などの充実。
			・ 急病時の診察対応。
		健康増進	・ 千葉県内には障害者が優先的に使用できるスポーツ施設が少なく、運動できる場所がない。
・ 脊髄損傷者に対応した人間ドック。			
・ 健康診断や運動・栄養指導の充実。			
愛育園	12件	規模	・ 短期入所ベッド数を増やして欲しい。(8件)
			・ 愛育園ベッド数の増床。(4件)
児童発達支援センター	3件	定員数	・ えぶりの定員数を増やして欲しい。(3件)
更生園	2件	規模	・ 入所ベッド数を増やして欲しい。(2件)

エ. 機能以外の主な意見

上記項目のうち、機能以外の項目について主な傾向や意見(件数の多い項目)は下記の通りです。

諸室	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 待合や病室、廊下等において、車いすやベッド搬送患者及び利用者に不都合が生じている。 ・ 飲食出来る休憩、フリースペースの設置要望。 ・ リハビリのためのスポーツ設備(トレーニング設備、プール等)の要望。 ・ 訓練室、個室、相談室数不足。 ・ 明るく、暖かみのある施設要望。 	
設備機器	
トイレ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 車いす患者及び利用者が使いやすい広さの確保。 ・ 十分なトイレ数の確保。 ・ おむつ交換等が実施出来るスペースの確保。
機器	<ul style="list-style-type: none"> ・ 最新の訓練機器の整備。
屋外	
駐車場	<ul style="list-style-type: none"> ・ 十分な駐車場台数の確保。 ・ 雨天時に配慮した屋根付き通路の整備。
車寄せ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 玄関前乗降スペースの拡充 ・ 雨天時に配慮した大きな庇。
運営・運用	
待ち時間	<ul style="list-style-type: none"> ・ 受付や会計待ち時間が長い。
売店	<ul style="list-style-type: none"> ・ 品揃えの充実。 ・ 営業時間の延長。
その他	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 送迎バス等の交通に関する意見、カフェ、コンビニ、ATM 設置に関する意見等 	

(3) 職員アンケート

利用者目線での現センター施設設備に関する課題と新センター要望について整理したアンケート調査結果は下記の通りです。

1) 調査手法

アンケートは、平成 31 年 2 月時点で当センターに在籍する全常勤職員を対象として現センターの施設設備に関する課題について調査しました。

アンケート内容	対象者	配布数	回収数	回収率
現センターにおける施設設備上の課題	平成 31 年 2 月時点における全常勤職員	528 枚	460 枚	87.1%

2) アンケート結果概要

回収した 460 枚において 3,877 件の意見記載があり、下記の通り分類・集計しました。

大項目	中項目		小項目	
	区分	件数	区分	件数
ハード面	諸室	1,461 件	リハビリテーション医療施設	749 件
			愛育園	475 件
			児童発達支援センター	61 件
			更生園	92 件
			補装具制作施設	1 件
			高次脳機能障害支援センター	38 件
			総合相談部	22 件
			地域リハ推進部	23 件
	動線	539 件	部門配置	341 件
			室配置	198 件
	設備・機器	906 件	トイレ	247 件
			空調	159 件
			設備	67 件
			EV	65 件
			情報	59 件
			通信	34 件
電源			25 件	
医療ガス			16 件	
その他			234 件	
セキュリティ	82 件	-		
屋外	252 件	駐車場	168 件	

			公園	31件
			屋外通路	22件
			屋外リハ	20件
			車寄せ	11件
	運営・運用	190件	案内	52件
			売店	51件
			運用	43件
			食堂	27件
			その他	17件
	その他	447件	交通	37件
コンビニ			33件	
カフェ			24件	
位置			23件	
ATM			20件	
その他			310件	

3) 各項目における主な意見

上記各項目における主な傾向や意見(件数の多い項目)は下記の通りです。

諸室	
リハビリテーション医療施設	<ul style="list-style-type: none"> ・待合や病室、廊下等において、車いすやベッド搬送患者に配慮した広さの確保。 ・個室が不足している。 ・面会、面談、説明室等のプライバシーが確保された諸室が不足している。 ・倉庫等の収納スペースが不足。 ・仮眠室、休憩室を充実して欲しい。 ・訓練室が手狭である。また、個別療法室が不足している。 ・会議室が不足している。また、執務スペースや更衣室が手狭である。 ・カフェテリアやレストラン、職員ラウンジ、研究スペース等の多職種による交流スペースが不足。
愛育園	<ul style="list-style-type: none"> ・病室が狭い。6人部屋ではなく、2人または4人部屋として欲しい。 ・面会、面談、説明室等のプライバシーが確保された諸室が不足している。 ・執務スペースが手狭である。 ・倉庫等の収納スペースが不足。
児童発達支援センター	<ul style="list-style-type: none"> ・通園スペースが狭く、ニーズに対応出来ていない。 ・面会、面談、説明室等のプライバシーが確保された諸室が不足している。 ・休憩室を充実して欲しい。
更生園	<ul style="list-style-type: none"> ・居室の個室化(2人部屋または全室個室)やプライバシーが確保出来る仕様。 ・仮眠室、休憩室を充実して欲しい。

	<ul style="list-style-type: none"> ・面会、面談、説明室等のプライバシーが確保された諸室が不足している。 ・倉庫等の収納スペースが不足。 ・執務スペースが手狭である。
補装具制作室	<ul style="list-style-type: none"> ・作業スペース及び利用者対応が同室(1 部屋)となっているため、利用者対応用個室を整備して欲しい。
高次脳機能障害支援センター	<ul style="list-style-type: none"> ・面談室が不足している。 ・休憩室が不足している。
総合相談部	<ul style="list-style-type: none"> ・相談室が不足している。
地域リハ推進部	<ul style="list-style-type: none"> ・会議室、研修室が不足している。 ・休憩室が不足している。
動線	
部門配置	<ul style="list-style-type: none"> ・構造の複雑さから動線も複雑となっており、迷いやすい。 ・各病棟と訓練室の動線等、機能的な連携を考慮した施設配置が必要。 ・病棟リハビリや自主トレーニングスペース等のリハビリ訓練強化に向けた施設整備。 ・患者と職員動線が混在している。
室配置	<ul style="list-style-type: none"> ・病棟外に浴室があり、療養環境が悪い。
設備・機器	
トイレ	<ul style="list-style-type: none"> ・車いす患者及び利用者が使いやすい広さの確保。 ・十分なトイレ数の確保。 ・おむつ交換等が実施出来るスペースの確保。 ・カーテン式ではなく、プライバシーが確保される仕様。
空調	<ul style="list-style-type: none"> ・各種空調設備が老朽化により、機能低下している。 ・各部屋で空調管理ができない。
情報	<ul style="list-style-type: none"> ・電子カルテの導入。
セキュリティ	
	<ul style="list-style-type: none"> ・防犯対策の充実。 ・病院出入口における来訪者・面会者の管理。 ・病棟出入口や各諸室の入退管理。
屋外	
駐車場	<ul style="list-style-type: none"> ・十分な駐車場台数(職員駐車場合む)の確保。 ・雨天時に配慮した屋根付き通路の整備。
運営運用	
案内	<ul style="list-style-type: none"> ・院内案内や各種表示がわかりづらく、見えづらい。
売店	<ul style="list-style-type: none"> ・品揃えを充実して欲しい。 ・24 時間営業として欲しい。
その他	
	<ul style="list-style-type: none"> ・送迎バス等の交通に関する意見、カフェ、コンビニ、ATM 設置に関する意見等